

いで溺死、転倒・転落、中毒の順となっている。本書からも、高齢者の生活の場の安全確保が必要であり、事故を未然に防ぐための環境作りと介護者の教育が大切であることと提言されている。

#### E. 結論

高齢者施設および保育所での中毒事故に関する基礎資料が得られた。特に、高齢者による中毒事故は、不慮の事故が多く、症状の発現率が高いことが判明した。認知症などを有する患者がいるため、大量摂取した可能性が考えられる。また、起因物質は高齢者特有のもの、あるいは身の回りにあるものが多かった。高齢者の中毒事故防止のためには、生活環境の整理および管理を十分に行うこと、また、介護者が中毒起因物質、中毒に関する正しい知識を持ち、介護に当たることが必要である。

今回のデータを基に次年度は高齢者施設の全国調査を実施する予定である。

#### 参考文献

- 1) 吉岡敏治 編著：高齢者の中毒。日本中毒情報センター、1991.
- 2) 日本中毒情報センター：2005 年受信報告。中毒研究 2006; 5: 297-318.
- 3) 日本中毒情報センター：1991 年度受信報告。中毒研究 1992; 19: 173-203.
- 4) 小池荘介 監修：高齢者・乳幼児の不慮の事故予防マニュアル。東京救急協会、1999.
- 5) 林泰史、児玉桂子、中野いく子、他：高齢者の安全確保に関する調査研究報告書 -身のまわりの事故から高齢者をま

もるために-. 長寿社会開発センター、1998.

#### F. 健康危機情報

なし

#### G. 研究発表

1. 論文発表  
なし
2. 研究発表  
1) 渡辺晶子、飯塚富士子、黒木由美子、他：茨城県内の高齢者施設、保育所における急性中毒事故実態アンケート調査。第 20 回日本中毒学会東日本地方会、2007.1. (東京)、発表。

#### H. 知的財産権の出版・登録状況

なし

表1 高齢者施設 設置主体

設置主体	入所施設						通所施設		訪問看護 テーション	施設数 (計)	割合
	特別養護老 人ホーム	養護老人 ホーム	軽費老人 ホーム(AB 型)	認知症グ ループホー ム	介護老人保 健施設	軽費老人 ホーム(ケア ハウス)	老人デイ サービスセ ンター				
社会福祉施設	24			4	2	10	31		3	74	44.6%
会社				17			17			34	20.5%
法人	2		1	1	2		3		4	13	7.8%
社団				3	3		2		5	13	7.8%
市町村立	1	3					6			10	6.0%
医療法人					7		2		1	10	6.0%
医療				2					1	3	1.8%
有限会社				3						3	1.8%
個人				2						2	1.2%
組合									1	2	1.2%
不明										1	0.6%
厚生連									1	1	0.6%
計	27	3	1	32	14	10	63		16	166	100.0%

表2 高齢者施設における平均入所者数

平均入所者数	入所施設						通所施設	訪問看護	施設数 (計)	割合
	特別養護老 人ホーム	養護老人 ホーム	軽費老人 ホーム(AB 型)	認知症グ ループホーム	介護老人保 健施設	軽費老人 ホーム(ケア ハウス)				
0～9				10			10	5	25	15.1%
10～19				16			19	4	39	23.5%
20～29				5		1	17	2	25	15.1%
30～39							0		0	0.0%
40～49		3				3	3	2	11	6.6%
50～59	18		1		2	5	10	2	38	22.9%
60～69	4				0	1	4		9	5.4%
70～79	2				5				7	4.2%
80～89	0				2				2	1.2%
90～99	0				5			1	6	3.6%
100以上	3								3	1.8%
記載なし				1					1	0.6%
計	27	3	1	32	14	10	63	16	166	100.0%

表3 高齢者施設における入所者平均年齢

平均年齢	入所施設					通所施設		施設数 (計)
	特別養護老 人ホーム	養護老人 ホーム	軽費老人 ホーム(AB 型)	認知症グ ループホー ム	介護老人保 健施設	軽費老人 ホーム(ケア ハウス)	老人デイ サービスセン ター	
70						1	1	2
71								
72								
73							1	1
74				2				
75	1			1		1		2
76				1	1			2
77		1		1		1		4
78		1		2		3		4
79		1		3		1		7
80	1			2		1		7
81	1			2	2			15
82	2		1	3	1			11
83	2			3	2	4		15
84	6			6	2			20
85	3			1	4	1		20
86	7				1			17
87	1			2	1			14
88	1			3				7
未記入	2			1	1			5
計	27	3	1	32	14	10	63	166

表4 高齢者施設種類と施設毎の中毒事故発生率

施設の種類	発送数	返送数	発生施設数	症例数	施設毎発生率
特別養護老人ホーム	68	27	5	11	18.5%
養護老人ホーム	8	3	0	0	-
軽費老人ホーム(AB型)	3	1	0	0	-
認知症グループホーム	96	32	0	0	-
介護老人保健施設	42	14	1	2	7.1%
軽費老人ホーム(ケアハウス)	22	10	1	2	10.0%
通所施設	172	63	3	3	4.8%
訪問看護	50	16	2	2	12.5%
合計	461	166	12	20	7.2%

表5 高齢者施設 中毒事例

起因物質	事例数	年齢	性別	状況	認知症の有無	要介護	有症状 (有症率)	場所
<b>家庭用品</b>								
	13						8(61.5%)	
生石灰乾燥剤	2	95	男	不慮の事故	あり	3	1	娯楽集会室
		75	女	不慮の事故	あり	3		食堂
固形石けん	2	75	女	不慮の事故	あり	4	1	洗面所
		79	女	不慮の事故	あり	1		娯楽集会室
タバコ	2	79	男	不慮の事故	不明	3	1	娯楽室
		74	女	不慮の事故	あり	4		談話室
粉石けん	1	63	女	不慮の事故	あり	4	1	施設内(不明)
クレンザー	1	88	男	不慮の事故	あり	3	1	居室
食器洗剤	1	82	男	不慮の事故	あり	3	0	居室
義歯洗浄剤	1	84	女	不慮の事故	あり	不明	1	施設内(廊下)
尿石付着防止剤	1	86	女	不慮の事故	あり	3	1	食堂
使い捨てカイロ	1	63	女	不慮の事故	あり	不明	1	居室
昆虫ゼリー	1	92	女	不慮の事故	あり	4	0	居室
<b>医薬品</b>								
	6						2(33.3%)	
利尿剤	1	83	男	不慮の事故	あり	3	0	食堂
血圧降下剤	1	88	女	不慮の事故	なし	4	0	食堂
オキシオコドンチン	1	91	女	不慮の事故	なし	3	1	自宅
酸化マグネシウム	1	78	女	不慮の事故	あり	4	0	食堂
傷薬(スプレータイプ)	1	99	女	不慮の事故	あり	5	1	娯楽室
イソジン消毒剤	1	87	男	不慮の事故	あり	3	0	廊下
<b>農薬</b>								
	1						1(100%)	
農薬	1	86	男	自殺企図	なし	4	1(死亡)	自宅

\*全て経口による摂取

表6 高齢者施設における中毒事故防止対策啓発教育活動の必要性

	入所施設						通所施設		訪問看護		割合
	特別養護老人ホーム	養護老人ホーム	軽費老人ホーム(AB型)	軽費老人ホーム(ケアハウス)	介護老人保健施設	認知症グループホーム	老人デイサービスセンター	訪問看護ステーション	訪問看護ステーション	施設数(計)	
必要	25	2	1	8	10	30	54	14	144	86.7%	
不要	0	1	0	0	0	0	8	0	9	5.4%	
分からない	2	0	0	0	3	1	0	1	7	4.2%	
記載無し		0	0	2	1	1	1	1	6	3.6%	
計	27	3	1	10	14	32	63	16	166	100.0%	

表7 マニュアルの有無について

	入所施設						通所施設		訪問看護		割合
	特別養護老人ホーム	養護老人ホーム	軽費老人ホーム(AB型)	軽費老人ホーム(ケアハウス)	介護老人保健施設	認知症グループホーム	老人デイサービスセンター	訪問看護ステーション	訪問看護ステーション	施設数(計)	
ある	8	3	1	6	3	14	23	5	63	38.0%	
なし	10	0	0	2	7	11	22	10	62	37.3%	
検討中	9	0	0	2	4	6	14	1	36	21.7%	
不明	0	0	0	0	0	1	1	0	2	1.2%	
記載無し	0	0	0	0	0	0	3	0	3	1.8%	
計	27	3	1	10	14	32	63	16	166	100.0%	

表8 中毒110番の認知度および利用状況

中毒110番の認知度	入所施設					通所施設			訪問看護	施設数(計)	割合
	特別養護老人ホーム	養護老人ホーム	軽費老人ホーム(AB型)	軽費老人ホーム(認知症グループホーム)	介護老人保健施設	軽費老人ホーム(ケアハウス)	老人デイサービスセンター	訪問看護ステーション			
知っていた	16	0	0	17	8	3	25	11	80	48.2%	
利用したことがある	3	0	0	1	1	0	2	0	7	<8.8%>	
知らなかった	11	3	1	15	6	7	37	5	85	51.2%	
記載なし							1		1	0.6%	
計	27	3	1	32	14	10	63	16	166	100.0%	

< >: 中毒110番を認知していた施設中の中毒110番利用率



表9 事故防止対策の要望（複数回答あり）

中毒事故防止対策 要望	入所施設						通所施設		訪問看護		施設数(計)	割合(%)
	特別養護老人ホーム	養護老人ホーム	軽費老人ホーム(AB型)	認知症グループホーム	介護老人保健施設	軽費老人ホーム(ケアハウス)	老人デイサービスセンター	訪問看護ステーション				
パンフレット、ビデオ、図書等の利用	22	1	1	17	11	6	52	14	124	74.7%		
パンフレット	18	0	0	19	13	3	41	12	106	63.9%		
冊子	13	0	0	10	9	0	20	5	57	34.3%		
図書	2	0	0	6	1	0	1	0	10	0.6%		
ビデオ	9	0	1	8	5	3	16	4	46	27.7%		
DVD	2	0	0	6	0	2	4	0	14	8.4%		
ポスター	8	0	0	8	8	4	26	5	59	35.5%		
シール	1	0	0	2	0	0	2	1	6	3.6%		
ホームページ	8	0	0	5	3	0	12	2	30	18.1%		
その他	0	0	0	0	0	0	2	1	3	1.8%		
中毒事例に関する講習会	15	1	1	17	4	7	25	9	79	47.6%		
応急処置法の実地講習	17	1	0	15	7	6	32	8	86	51.8%		
マスコミによる啓発活動	4	1	0	9	4	2	22	5	47	28.3%		

表10 保育所 設置主体

設置主体	施設数	割合
市町村立	126	47.9%
私立(個人を含む)	118	44.9%
社会福祉法人	6	2.3%
認可外	5	1.9%
NPO	1	0.4%
株式会社	1	0.4%
学校法人	1	0.4%
その他	4	1.5%
記載なし	1	0.4%
	263	100.0%

表11 平均園児数

平均園児数	施設数	割合
0～49	51	19.4%
50～99	122	46.4%
100～149	68	25.9%
150～199	14	5.3%
200～(273)	6	2.3%
記載なし	2	0.8%
計	263	100.0%

表12 保育所施設毎の中毒事故発生率

	発送数	返送数	発生施設数	症例数	施設毎発生率
保育所	547	263	12	17	4.6%

表13 保育所 中毒事例

起因物質	事例数	年齢	性別	状況	経路	有症状 (有症率)	場所
<b>家庭用品</b>						<b>0(0%)</b>	
乾燥剤	1	3	男	不慮の事故	経口	無し	園内(教室)
ろうそく	1	2	男	不慮の事故	経口	不明	園内(保育室)
たばこ	1	2	男	不慮の事故	経口	無し	園外(公園)*
<b>医薬品</b>						<b>0(0%)</b>	
消毒薬	1	4	男	不慮の事故	経口	無し	園内(手洗場)
感冒薬	1	2	男	不慮の事故	経口	無し	園内(教室)
点鼻薬	1	6	女	不慮の事故	眼	無し	園内(教室)
<b>自然毒</b>						<b>4(36.4%)</b>	
毛虫	1	5	男	不慮の事故	刺傷	赤い発疹	園内(運動場)*
スズメバチ	1	5	男	不慮の事故	刺傷	無し	園外(果樹園)*
ハチ	4	4	男	不慮の事故	刺傷	痛み	屋外*
		1	男	不慮の事故	刺傷	不明	園内(テラス)*
		4	不明	不慮の事故	刺傷	痒み	園外(公園)*
		5	女	不慮の事故	刺傷	無し	園内(園庭)*
毒蛾のまゆ	3	5	男	不慮の事故	皮膚	無し	園内(運動場)*
		5	男	不慮の事故	皮膚	無し	園内(運動場)*
		5	男	不慮の事故	皮膚	無し	園内(運動場)*
ムカデ	1	5	女	不慮の事故	刺傷	皮膚発赤、腫れ、痛み	園内(運動場)*
菩提樹の実	1	1	男	不慮の事故	経口	無し	園内(運動場)*

\*屋外での事故

表14 中毒事故防止対策啓発教育活動の必要性

中毒事故防止対策 啓発教育活動の必要性	施設数	割合
必要	242	92.0%
不要	2	0.8%
分からない	12	4.6%
記載無し	7	2.7%
計	263	100.0%

表15 マニュアルの有無について

マニュアルの有無	施設数	割合
ある	87	33.1%
なし	112	42.6%
検討中	53	20.2%
不明	0	0.0%
記載無し	11	4.2%
計	263	100.0%

表16 中毒110番認知度と利用状況

中毒110番の認知度	施設数	割合
知っていた	152	57.8%
利用したことがある	10	<6.6%>
知らなかった	111	42.2%
計	263	100.0%

< >: 中毒110番を認知していた施設中の中毒110番利用率

表17 事故防止対策の要望(複数回答あり)

中毒事故防止対策 要望	施設数	割合
パンフレット、ビデオ、図書の利用	228	86.7%
パンフレット	151	57.4%
冊子	105	39.9%
図書	25	9.5%
ビデオ	95	36.1%
DVD	41	15.6%
ポスター	72	27.4%
シール	16	6.1%
ホームページ	53	20.2%
その他	4	1.5%
講習会	131	49.8%
実地講習	151	57.4%
マスコミによる啓発活動	49	18.6%

表18 家庭用品中毒の起因物質別 症例数

	アンケート調査結果 高齢者施設症例数		JPIC 受信症例数 65歳以上	
	2006年 n=20	1991年 n=227	2005年 n=1,793	1991年 n=746
家庭用品	13症例 (65.0%)	173症例 (76.2%)	1,103症例 (61.5%)	442症例 (59.2%)
生石灰乾燥剤	2	9	54	22
石けん	2	24	51	11
タバコ	2	23	19	13
衣類用洗剤	1	-	22	7
食器洗い用洗剤	1	18	51	15
クレンザー	1	-	4	1
義歯洗浄剤	1	-	124	21
使い捨てカイロ	1	15	18	15
その他	2	-	-	-

平成 18 年 10 月 11 日

高齢者施設 管理者殿

財団法人 日本中毒情報センター  
常務理事 大橋 教良

## アンケート調査のご協力お願い

拝啓 時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

財団法人日本中毒情報センターは、化学物質（家庭用品、医薬品、農薬等）や動植物の成分によって起こる急性中毒について、その治療に必要な情報の収集と整備ならびに問い合わせに対する情報提供などを行い、わが国の医療の向上を図ることを目的とした機関です。（<http://www.j-poison-ic.or.jp/homepage.nsf>）

当財団では、中毒事故発生防止に係わる啓発活動の目的で、厚生労働科学研究費補助金（化学物質リスク研究事業）「家庭用化学製品のリスク管理におけるヒトデータの利用に関する研究」（主任研究員：吉岡敏治）（3年計画）を行っております。その中で私は「高齢者施設等の調査」を担当いたします。

本研究の目的は、高齢者施設において発生しやすい中毒事故を調査し、中毒事故防止に有用な方法を明らかにすることです。調査対象は、茨城県保健福祉部が公開している「いばらき保健福祉ねっと」のインターネット検索システムから検索しえた茨城県内の高齢者福祉施設といたしました。

つきましては、お忙しいところ誠に恐縮ではございますが、本研究の趣旨をご理解いただきまして、貴施設の状況について、アンケートにご記入いただければ幸いです。

なお、アンケート調査に際しましては、健康被害の履歴などの個人情報が増えることのないよう管理いたします。また、アンケート調査の結果は、今回の調査研究においてのみ活用することとし、他の目的に流用することはいたしません。

アンケートにご記入いただけましたら、10月末日までに同封の封筒にてご返送くださいますようお願いいたします。

どうぞよろしくご協力のほど、お願い申し上げます。

敬具

ご不明な点がございましたら下記担当者までご連絡ください

(財)日本中毒情報センター つくば中毒 110 番 飯塚/岡根/渡辺  
〒305-0005 茨城県 つくば市天久保 1-2 つくば総合健診センター内  
TEL 029-852-6399

高齢者施設における化学物質、動植物の毒による  
中毒事故実態アンケート調査  
記入要領

I. 一般的な留意点について

- (1) 本アンケート調査は高齢者が家庭用化学製品や医薬品などの化学物質や動植物の毒を摂取して急性中毒を示したかまたはそれを疑わせる事故例の発生状況に関する実態調査です。
- (2) 本アンケートの対象となる中毒は、意図的または誤使用などの不慮の事故として一度に大量に摂取した場合の急性中毒です。したがって、異物（プラスチック、ガラス、硬貨、紙類、医薬品の PTP 包装等）、細菌性食中毒、慢性中毒、医薬品の常用量による副作用等は除いてください。主な中毒事例を、「日本中毒情報センターに問い合わせのあった高齢者の中毒事例」（裏面に記載）に示しましたので、ご参照ください。なお、2005 年に日本中毒情報センターで受信した総問い合わせ件数は 32,179 件です。そのうち 65 歳以上の高齢者の事故は 1,793 件でした。
- (3) 摂取経路は、経口摂取（誤飲、誤食等）のほか、吸入（散布中等）、眼に入った、皮膚に付着した、咬刺傷も含まれます。
- (4) 年齢、性別等不明の場合も提出してください。
- (5) 回答は、原則的に該当する番号に○を付けるか、ご記入をお願いします。

II. 「施設票」の記入について

- (1) 平均入所者数は、1 日の平均入所者数をご記入ください。通所施設、訪問看護施設の場合は、1 日の平均登録者数をご記入ください。
- (2) 中毒事例数は、中毒事例調査票にご記入いただいた事例数をご記入ください。

III. 「中毒事例調査票」の記入について

過去 3 年間の中毒事例について、わかる範囲でご記入をお願いします。

1. 事故発生日時：時間は 24 時間表記でご記入ください。
2. 患者：年齢が確認できない場合は、推定年齢をご記入ください。また、介護の程度、認知症の有無についてご記入ください。
3. 中毒原因物質：わかれば商品名および用途名をご記入ください。3 つ以上の場合には、11. その他の欄にご記入ください。  
量：正確な量でなくても、一口とかスプーンに 1 杯等の概算量でもご記入ください。
4. 事故発生場所：事故が発生した場所についてご記入ください。
5. 経路：経路のその他には、注射、肛門内挿入等具体的にご記入ください。
6. 発生状況：もし他殺目的と思われるケースが万が一あれば、意図的として 1. に含めてください。また、認知症のために間違っ用いたケースも 2. にご記入ください。3. その他の項は、第三者が誤って与えたケース（例えば介護者が他の利用者の薬を誤って飲ませてしまった等）をご記入ください。
7. 経過中にみられた症状：具体的に（例えば、嘔吐、唇の腫れ等）ご記入ください。
8. 現場での対応：応急処置、治療を行った場合は、具体的な処置方法をご記入ください。
9. 対応決定に参考にした情報源：対応処置方法を決定するために、参考にされた情報源または相談聴取された施設または関係者についてご記入ください。
10. 最終的予後：患者の対応処置の結果についてご記入ください。
11. その他：記載事例で、困ったこと、その他何かございましたらご記入ください。



## 日本中毒情報センターに問い合わせのあった高齢者の中毒事例

分類	物質	事例
家庭用品	生石灰乾燥剤	生石灰をふりかけと間違えてごはんにかけて一口食べた。焼け付くような刺激に驚いて食べるのを止めたが、嘔吐、上部消化管の発赤・腫脹がみられたので2時間後に医療機関を受診した。
	化粧水	容器がペットボトルに似ていたため、飲料水と間違えて1口飲んでしまった。すぐに吐き出しうがいをしたが悪心、嘔吐がみられたため、30分後に受診した。
	義歯洗浄剤	大きな湯のみで錠剤の義歯洗浄剤を水に溶かして義歯を洗浄していた。知らずに100mLほどを一気に飲んでしまった。舌の違和感がみられた。
	義歯洗浄剤	錠剤の義歯洗浄剤を食べ物と間違えて食べてしまった。上部消化管の違和感(食道がスーツとする感じ)がみられた。
	固形石けん	早朝、固形石けんを食べた。嘔吐などはみられなかったが、時間が経つにつれ上唇が腫れてきたため、5時間後に受診した。
	漂白剤	持病(糖尿病)の薬を飲む際、コップの水を飲んだら喉がヒリヒリしたため、約1時間後に受診した。コップいっぱいの水に漂白剤を3滴たらして漂白をしていた。
	殺虫剤	庭木に殺虫剤を散布した直後から嘔吐、手の発赤・かゆみ、頭痛、息苦しさがみられた。散布の際には手袋はしていたが、マスクはしていなかった。12時間後に下痢がみられた。
	防虫剤	認知症の高齢者が、あめと間違えて食べた。辛いので、すぐに口から出したと言っているが、2個入りの製品で、1個がなくなっているため、1個食べた可能性がある。
	芳香剤(ゼリー状)	自室に置いてあった芳香剤に、スプーンで削った跡があった。食べた可能性が高い。
	ポータブルトイレ用防臭液	認知症の高齢者が防臭剤を1袋食べてしまい、発熱がみられたので、医療機関を受診した。
	保冷剤	高齢者施設入所者が、凍った保冷剤をアイスと間違えてかじって食べていた。すぐにスタッフが気づき取り上げたので食べた量は一口くらいである。
	使い捨てカイロ	高齢者施設入所者が夜、使い捨てカイロを食べてしまった。熱くなっていなかったため、食べてしまったようだ。夜中に下痢を2回、嘔吐が1回みられた。
	紙おむつ	認知症の高齢者施設入所者がトイレに行った時、紙おむつで顔を洗っていた。紙おむつが破れて、中身が眼に入り、眼の周囲の軽度の腫脹がみられた。介護者が眼を離した一瞬の出来事であった。
ガソリン	草刈り機用のガソリンをペットボトルに入れておいたところ、飲料水と間違えて一口飲んでしまった。すぐに吐き出したが、少量飲んだようだ。悪心がみられ、1回嘔吐した。	
灯油	酒と間違えて灯油をコップに2~3杯飲んだ。直後に嘔吐し、その後発熱などの症状がみられたので、2日後に医療機関を受診した。受診時には肺炎が認められた。	
医薬品	催眠鎮静剤	眠れないので、1回1錠のところを、良く効くようにと4錠飲んだ。その後、傾眠、失禁がみられた。
	抗てんかん薬	高齢者施設内で、他の利用者の薬と間違えて、服用させてしまった。
	抗真菌薬	水虫の薬を目薬と間違えて点眼してしまった。眼が充血し、見えにくくなった。
	殺菌消毒剤	医療機関入院中の高齢者2名が朝食時に牛乳と間違えて原液を30~50mL飲んだ。2名に悪心がみられ、1名に喉の痛み、他の1名には喉頭浮腫がみられた。
	殺菌消毒剤	浴室で身体を洗っている時に、ボディソープと間違えて使用してしまい、眼に入った。眼の痛みがみられたので、40分後に医療機関を受診した。
動植物	カランコエの葉	観葉植物(カランコエ)を食べた。口のしびれが認められた。
	スイセンの葉	ネギと間違えて、食べ始めた。味がおかしいのですぐに吐き出したが、その後嘔吐がみられたため、医療機関へ相談の電話があった。
	きのこ	夫婦で山で採取したきのこを食べた。翌日、夫に軽い下痢、妻には下痢と嘔吐がみられたので医療機関を受診し、入院した。入院時、妻には肝炎がみられた。
	クマンパチ	草刈りをしている時に、クマンパチに刺された。地面から1mくらいのところに巣があったようだ。知らずに草刈りをしていたところ、3匹のハチが攻撃してきた。唇と腕(2箇所)を刺された。唇が腫れている。ハチに刺されたのは今回が初めてである。

高齢者施設における化学物質、動植物の毒による中毒事故実態アンケート調査

施設票

施設名	
設置（経営）主体	1.県立 2.市町村立 3.組合立 4.会社 5.個人 6.法人（61.社団 62.財団 63.社会福祉 64.宗教 65.その他 _____） 7.その他 _____
平均入所者数	_____名（男性_____名、女性_____名） 要支援 : _____名 要介護 1 : _____名、 要介護 2 : _____名 要介護 3 : _____名、 要介護 4 : _____名 要介護 5 : _____名
平均入所者年齢	_____歳（最年少者_____歳、最年長者_____歳）
記入者（職種） (勤務年数)	職種（1.看護師 2.ケアマネージャー 3.ホームヘルパー 4.事務 5.その他 _____） 本施設勤務年数 _____年
記入日	平成 18 年 _____ 月 _____ 日
中毒事例数	_____事例

I.過去 3 年間の高齢者施設内の事故発生状況について

問 1. 過去 3 年間に施設内で化学物質、動植物の毒による事故が発生しましたか。

1. はい、 2. いいえ…→次ページ設問へお進みください。

↓

問 2. 発生頻度についてご記入ください。 3 年間 \_\_\_\_\_ 回程度

\* 発生した中毒事例について別紙「中毒事例調査票」にわかる範囲で  
ご記入をお願いします

この施設票(2枚)は、回答率を把握するために必要ですので、該当事例がない場合でも、各項目にご記入の上、必ずご返送ください。

## Ⅱ.高齢者の化学物質、動植物の毒による中毒事故防止と対応について

問3. 中毒事故が発生した時の対応の手順（マニュアル）はありますか。

1. ある      2. なし      3. 検討中である      4. 不明

問4. 中毒事故防止のために行っている対策はありますか。

[ ]

問5. 日本中毒情報センター「中毒110番」を知っていましたか。

1. 知っていた      2. 知らなかった

問6. 日本中毒情報センター「中毒110番」を利用したことがありますか。

1. ある      2. なし      3. 不明

問7. 中毒事故防止と対応に有用と考える対策について、ご回答ください。

1) 介護者（家族、施設内の介護者）向けの啓発教育活動は必要だと思いますか。

1. 必要      2. 不要      3. わからない

2) 中毒事故防止と対応はどのような方法が有効と思いますか。（複数回答可）

1. パンフレット、図書、ビデオ等の利用

- 1.パンフレット      2.冊子      3.図書      4.ビデオ      5.DVD

- 6.ポスター      7.シール      8.ホームページ

9.その他[ ]

2. 外部機関による中毒事例に関する講習会

3. 外部機関による中毒が発生した際の応急処置の現地講習

4. テレビ、新聞等マスコミによる啓発教育活動

5. その他（ )

問8. 中毒事故防止のためのご要望等をご記入ください。

[ ]

ご協力いただき ありがとうございました。

この施設票(2枚)は、回答率を把握するために必要ですので、該当事例がない場合でも、各項目にご記入の上、必ずご返送ください。

# 中毒事例調査票

No. \_\_\_\_\_

過去3年間の貴施設での中毒事例について、わかる範囲でご記入をお願いします。

1. 事故発生日時	平成____年__月__日__時頃 ・ 不明 1.食事中 2.入浴中 3.談話中 4.その他_____ 5.不明
2. 患者(年齢、性別)  (介護)  (認知症の有無)	年齢____歳、(推定____歳) 1.男性 2.女性 3.不明 介護: 1.要支援 2.要介護1 3.要介護2 4.要介護3 5.要介護4 6.要介護5 認知症の有無: 1.あり 2.なし 3.不明
3. 中毒原因物質	①商品名 _____ 用途名 _____ 量 _____ (1.g 2.mL 3.錠 4.カプセル 5.本 6.個 7.その他 _____ 8.不明) ②商品名 _____ 用途名 _____ 量 _____ (1.g 2.mL 3.錠 4.カプセル 5.本 6.個 7.その他 _____ 8.不明)
4. 事故発生場所	1.施設内 [11.居室・療養室(病室) 12.食堂 13.娯楽・談話室・集会室 14.洗面所・浴室 15.トイレ 16.庭] 2.施設外 [21.屋内(レストラン等) 21.屋外(公園等)] 3.その他 _____ 9.不明
5. 経路	1.経口 2.眼 3.吸入 4.経皮 5.咬刺傷 6.その他 _____
6. 発生状況	1.意図的もしくは自殺目的 2.誤って、勘違い、もしくは中毒になると思わずに (もし可能なら具体的に _____ ) _____ (例:水や酒と間違えて、量を間違えて、散布中に誤って吸入等) 3.その他(具体的に _____ ) 4.不明
7. 経過中に みられた症状	1.なし 2.あり _____

コピー用(2症例目からは、お手数ですがこちらの用紙をコピーしてご記入をお願いします。)